



# 営農NEWS



## バレイショ疫病、アブラムシ類などの発生に 注意し、防除を励行しましょう

今年のバレイショ栽培では、発芽の早かった圃場で、4 月に入り晩霜で軽い被害に遭遇したのも見られましたが、多くは順調な生育で推移しています。

これから開花期に入っていきますが、開花期以降は、疫病が発生しやすくなります。なお、気象の 1 ヶ月予報（5 月 8 日）によりますと、今後、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は、平年並みまたは低い確率 40%、日照時間も平年並みまたは少ない確率 40%と、疫病が発生しやすい条件になる恐れがあります。このため、今後の天候の変動に十分注意して、降雨が多い場合には予防散布や発生初期の防除を必ず実施してください。

また、バレイショに寄生するアブラムシ類は、直接的な吸汁被害を生じる他にウイルスを媒介してモザイク病を発生させますので、アブラムシ発生初期からの防除が必要になります。なお、モザイク病に感染した株は、回復の見込みが無く、他への伝染源となりますので、早急に抜き取り、適切に処分してください。

これら疫病、アブラムシ類などは、被害の進展が早急なため、圃場をよく観察して早期発見に努め、必要に応じて適切な防除に努めてください。

### <防除のポイント>

#### 1. 疫病

- 1) 開花期以降になると発病しやすくなるので、開花はじめから薬剤防除を実施してください。天候が不安定で、降雨が続くような場合には、定期的な薬剤散布に努めてください。疫病は、多発生してからでは防除が困難となりますので、予防散布または発生初期の防除が重要になります。
- 2) 窒素肥料の効きすぎや軟弱徒長の株は、発病しやすいので、特に注意が必要です。
- 3) 薬剤散布は、十分量（200ℓ/10a）の薬液で、葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。
- 4) 収穫期に降雨があると、イモに病原菌が流れて感染し、表面にやや陥没した褐色病斑が形成されて商品価値を失う場合があります。収穫後の被害を抑制するため、収穫は晴天の日を選び、よく乾燥を行った後に貯蔵しましょう。

#### 2. アブラムシ類、モザイク病

- 1) 圃場周辺の雑草は、アブラムシの飛来源やウイルスの保毒源となりますので、常に除草に心がけ、圃場衛生に努めましょう。
- 2) モザイク病の発病株は、早急に抜き取り、近くに放置せずに土中に埋めるか、圃場外に持ち出して適切に処分してください。

表 1 バレイショ 疫病の主な防除薬剤（平成 26 年 5 月 9 日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ランマンフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
ブリザード水和剤	800~1,500 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
プロポーズ顆粒水和剤	750~1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
フォリオゴールド	500~1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
カーゼート P Z 水和剤	600~800 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
ジマンダイセン水和剤	400~600 倍	収穫 7 日前まで / 10 回以内
ダコニール 1000	500~1,000 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
Z ボルドー	400 倍	- / -

表 2 バレイショ アブラムシ類の主な防除薬剤（平成 26 年 5 月 9 日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
アドマイヤー水和剤	1,000~3,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
チェス顆粒水和剤	5,000 倍	収穫 14 日前まで / 3 回以内
ジェイエース水溶剤	1,000~2,000 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 6 回以内
ダントツ水溶剤	4,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
アディオン乳剤	2,000~3,000 倍	収穫 14 日前まで / 4 回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040